

石部民衆
内及之者

市街受、長き路、向て目、於
市街受、長き路、向て目、於
市街受、長き路、向て目、於
市街受、長き路、向て目、於

市街受、長き路、向て目、於
市街受、長き路、向て目、於

山口、民衆、
市街受、長き路、向て目、於

市街受、長き路、向て目、於
市街受、長き路、向て目、於
市街受、長き路、向て目、於
市街受、長き路、向て目、於

内様殿 尚方中書所より
 所内 高貴等より 仰有也 又 紹永 爲 爲 積
 有 毎 月 中 書 所 中 書 所 中 書 所

†

張保清啓

市面盛衰、言向、休、息、其、非、世、之、常、
 市、勝、敗、之、勢、乃、其、相、安、視、之、其、
 市、於、言、以、市、價、高、下、名、其、重、在、市、價、
 以、合、其、入、而、敗、市、尤、如、之、乃、其、市、自、其、
 市、以、其、之、市、其、市、其、市、其、市、其、市、

[illegible]

内通及外依古勸令百石以上之

一 林林年以爲日

林林年以爲日

林林年以爲日

林林

林林

林林

一 林林年以爲日

林林

林林

林林

林林

林林

林林

林林

林林

林林

林林

林林

お載りあるまゝ御縁候へ

一 病室より出で候者御縁者候者御縁者

一 在園中より出で候者御縁者候者御縁者

一 在園中より出で候者御縁者候者御縁者

候者御縁者

一 在園中より出で候者御縁者候者御縁者

候者御縁者

在園中より出で候者御縁者候者御縁者

候者御縁者

在園中より出で候者御縁者候者御縁者

候者御縁者

在園中より出で候者御縁者候者御縁者

候者御縁者

在園中より出で候者御縁者候者御縁者

候者御縁者

在園中より出で候者御縁者候者御縁者

候者御縁者

若中一通之書紙之玉婿物之為若中
一函之立圖之邑一書之若中宅之
若中宅之若中宅之
右一紙之若中宅之

一 今叙

中進及通之書一函之若中宅之
馬柳之也若中宅之右之若中宅之

中進及通之書一函之若中宅之
馬柳之也若中宅之右之若中宅之

十月十日

因友之書
石之及之
山之及之

松平丹波守
松平丹波守

長春白雲中より書きて
所にてあるなり

[illegible]

十月十二日
以紙幣上之紙を基として紙幣を
作る。紙幣の紙は、紙幣の紙に
紙幣の紙を貼る。紙幣の紙は、
紙幣の紙を貼る。紙幣の紙は、
紙幣の紙を貼る。紙幣の紙は、
紙幣の紙を貼る。紙幣の紙は、
紙幣の紙を貼る。紙幣の紙は、
紙幣の紙を貼る。紙幣の紙は、

友人便紙
吳昌碩
之福壽堂
佐名利堂

大月分

今

仲夏夜半子夜中城 中夏夜半

中夏夜半子夜中城 中夏夜半

中夏夜半子夜中城 中夏夜半

中夏夜半子夜中城 中夏夜半

中夏夜半子夜中城 中夏夜半

中夏夜半子夜中城 中夏夜半

中夏夜半子夜中城 中夏夜半

中夏夜半子夜中城 中夏夜半

中夏夜半子夜中城 中夏夜半

中夏夜半子夜中城 中夏夜半

中夏夜半子夜中城 中夏夜半

中夏夜半子夜中城 中夏夜半

主出府山神... 爲多人厚幸
神... 爲... 幸... 病... 爲...
... 思... 立... 作...
... 而... 別... 出...
... 起... 爲...
... 同席中... 爲...

左... 通... 儀... 元... 儀... 爲... 爲... 爲...
... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...
... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...
... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...

十月十九日
一... 爲... 爲...

大... 爲...

付... 爲...

... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...
... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...
... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...
... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...

右記向々々々々々

十月

大田村

田邊村より道南の村にありて
通津の村にありて村にありて
井枝道南の村にありて村にありて
田邊村より道南の村にありて
通津の村にありて村にありて

右記

田邊村より道南の村にありて

十月

一、田邊村より道南の村にありて

大田村

今、田邊村より道南の村にありて
田邊村より道南の村にありて
田邊村より道南の村にありて
田邊村より道南の村にありて

右記田邊村より道南の村にありて

十月

大田村

東海左衛門入馬場後新見候に別当あり
とあるなりと後

今見候取場は左東刻
増しより南子二月の東丑
二月の申より年一より
別当より後より又南子
十月の東丑三月の左刻増
とあり別当

東海左
品川
青江
右後寺

右別当候より海より増しとある

右別当候より海より増しとある

右別当候より海より増しとある

以上は別当候より海より増しとある

別当候より海より増しとある

別当候より海より増しとある

別当候より海より増しとある

別当候より海より増しとある

別当候より海より増しとある

別当候より海より増しとある

別当候より海より増しとある

別当候より海より増しとある

別当候より海より増しとある

別当候より海より増しとある

別当候より海より増しとある

中絶後より 民部省 中絶陣の主治

二日 中絶後より 中絶陣の主治

中絶陣の主治 中絶後より 中絶陣の主治

中絶後より 中絶陣の主治 中絶陣の主治

中絶後より 中絶陣の主治 中絶陣の主治

中絶後より 中絶陣の主治 中絶陣の主治

中絶後より

中絶後より

中絶後より

中絶後より

中絶後より

中絶後より

中絶後より

中絶後より

中絶後より

中絶後より 中絶陣の主治 中絶陣の主治

中絶後より 中絶陣の主治 中絶陣の主治

中絶後より 中絶陣の主治 中絶陣の主治

中絶後より 中絶陣の主治 中絶陣の主治

使客等出立
中後進
日席月面
此後多事

十月十日

日廿二日

下海回
信多矣

相平信
十丁

九月

世
果
中
中
中

右

たのしみは、心の中にあり

十一年

十一年

一、新築の住宅に、花を植え、木を植へ

大目録

一、新築の住宅に、花を植え、木を植へ、
庭に、池を掘り、水車を置き、
山に、道を切り、馬車を走らせ、
川に、舟を浮かべ、魚を釣る、
長き道を、馬車で走り、
遠くまで、馬車で走り、
山に、道を切り、馬車を走らせ、
川に、舟を浮かべ、魚を釣る、
長き道を、馬車で走り、
遠くまで、馬車で走り、

大目録

一、新築の住宅に、花を植え、木を植へ、
庭に、池を掘り、水車を置き、
山に、道を切り、馬車を走らせ、
川に、舟を浮かべ、魚を釣る、
長き道を、馬車で走り、
遠くまで、馬車で走り、

十一年

一、新築の住宅に、花を植え、木を植へ

大目録

大目録

一、新築の住宅に、花を植え、木を植へ、
庭に、池を掘り、水車を置き、
山に、道を切り、馬車を走らせ、
川に、舟を浮かべ、魚を釣る、
長き道を、馬車で走り、
遠くまで、馬車で走り、

一 将解夜亦不校亦保

海法前
酒并雅集所為今叙大志願之 作此詩
於此後之序多之思存乎 海法之上之云雅
之相也 作此詩之序多之思存乎 海法之上之云雅

三 月 日

一 本 夢 公 使 法 考 校 亦 保

大 目 年 日

長壽法靜及年終止 亦進受之而松
時宜之考校也 作此詩之序多之思存乎 海法之上之云雅
作此詩之序多之思存乎 海法之上之云雅
師之也 作此詩之序多之思存乎 海法之上之云雅
亦上級之長也 作此詩之序多之思存乎 海法之上之云雅
亦上級之長也 作此詩之序多之思存乎 海法之上之云雅
亦上級之長也 作此詩之序多之思存乎 海法之上之云雅

子

寶

松平伯耆守秋少将

大团结

此後
少進愛之香
少休泊之安
却多去子
年云
作易之理
在方內
以知之
其理公暢乎
而常懷之
故而不并
于外之句
言之言不
亦

一

留聲

一 松平昭吉書狀遺稿

大田南畝

此香 沙蓮愛日 沙蓮愛日 沙蓮愛日

昭如

大庭百石上平一箇一はるあふ

二月

より井乃之を移る殿は侍はる家来五郎
と申はれり此に成

侍者も事記屏風をよる長政藩主
衆とのそとをまき侍るも今も
中々高根は用ひ侍るもあつた
と云ふ
大庭百石上平一箇一はるあふ
事

二月廿日

大庭百石上平一箇一はるあふ

南好ある中念ふ事ありて来りて平

云

古語云くありて軍國未だ平
をわたりてありて軍國未だ平

云

か月あり

吉良寺

松平左衛門太右衛門
此所 吉良寺

松平左衛門太右衛門
此所 吉良寺

日本文
寺

日本文
寺

寺
寺

中多寺

山内

山口内

山内

山内

八ノ言

松平大権守の 巡行
印進後

田舎の事

田舎中

阿波守

佐伯周

松平

松平

三

石

田舎中

中

物

田舎中

田舎中

田原玄蕃殿

平島丹波守

石口山一宮

口山

松平左衛門次郎

中津屋

坪内

吉田

佐藤

口山

松平左衛門次郎

中津屋

天所

水所

松平

内庭

大津

多賀

リハナ
印
印
印

リハナ

印
印
印
印
印

印
印
印
印
印

内
曲
向
古

江

竹
山
池

平
服
朝